

乗りやすく、 快適なバス乗車を目指して

資材部会長 杉本 眞
(レシップ(株)・代表取締役社長)



【会社紹介】

弊社は、1953年設立で、「輸送機器事業」「サイン&ディスプレイ事業」「産業機器事業」の3つの事業を行っており、2007年に東証2部・名証2部市場に上場しました。2002年に変更した社名のレシップは、弊社の事業領域である「光」「電力変換」「情報処理」を意味する英語の頭文字を並べたものです。主力の輸送機器事業では、バス・鉄道用の運賃箱やICカードシステム、車載用の液晶表示器(以下OBC-Vision)、LED式行き先表示器など、ワンマン運行をサポートするシステム機器と、バス・鉄道用に加え、主に商用車用の照明機器を生産しています。主な販売市場はバス市場で、前期の売上では、バス市場向けの製品が、連結売上の6割強です。自動車市場向けには、トラックの運転室や荷室の蛍光灯具、およびLED灯具をお納めしています。

【現在の方向性】

これまで成長を牽引してきたバス用ICカードシステムは、首都圏への納入が一巡したこともあり、次の基幹商品の育成を急いでいます。

弊社の経営理念は、「省エネルギー・地球環境対応・セキュリティ強化を通じて、快適な日常を実現するための製品・サービスを社会に提供する」です。レシップの主要なお客様である公共交通機関は、その利用そのものが、「省エネルギー」「地球環境」に非常に貢献するものであり、公共交通機関の乗客が増えるような製品・システムを企画・提案して行くことが、私たちのミッションです。従って、これまで以上に利便性が高く、快適な公共交通の実現に向けて、OBC-Visionを活用した「リアルタイム乗客情報システム」の提案を進めています。

また、省エネに貢献する製品としてLEDの普及が進む中、車載照明向け、或いは、屋外看板・施設照明向けのLED電源やLED灯具などLED関連

のビジネスを強化しています。更に、会社の成長を図るために、米国・シンガポール・香港等への輸送機器事業商品の提案を進めています。

【「リアルタイム乗客情報システム」とは】

現在、提案を進めているOBC-Visionの進化形として、バス車内に加え、バス停を始めとする屋外にも表示器を設置して、路線バスとのネットワークを構築することにより、多くの有益な情報をタイムリーに提供する、という従来にはなかったシステムです。具体的には、バス接近表示、乗換案内表示、周辺の施設案内、遅延・運休情報の表示、ニュースやCM、事故・火災・地震・気象等の緊急・災害情報を、バス車内のOBC-Visionで、駅やバス停の表示器で、病院などの施設の待合室で、或いは、携帯電話で、そして、文字、イメージ、マルチ言語、音声で、リアルタイムに表示・案内する、というものです。

「乗りやすいバス」、つまり、停留所では何分したら、どこ行きのバスが確実に来るかが表示器で示され、バス車内では目的地までの所要時間がわかり、電車等への乗り換え、遅れ、運休情報等も表示される、そういう「快適なバス乗車」を実現できれば、その利便性が評価され、乗客の拡大にも繋がると考えています。

2年前、ベルリンに出張した時、ベルリンの総てのバス停留所に、LED式バス接近表示器が設置されていました。「何分以内に来る」という情報も正確であり、そのお陰で、私は大した苦勞もせずベルリンの街中のいろんな場所を訪問することができました。

日本で、「リアルタイム乗客情報システム」が普及したら、より快適に、バスに乗降できるはずだと強く印象付けられた契機となりました。